

人間研究学域 入学前課題講評

今回の入学前課題では、例年同様、人間研究学域での学びと密接に関連する五つの著書を課題テキストとして指定し、その中の一つの文献に対する要約と批評を課しました。以下に全体の講評と文献別の講評を記します。

【全体の講評】

- 課題テキストの内容を大幅に逸脱した要約は見当たらず、みなさんそれなりにきちんと文献を読み、その内容を理解している様子が窺われました。
- プレエントランスデーの学域別企画において過年度の講評を配布してもらった効果もあつてか、自分の体験に引き寄せた感想など、文献の議論をほとんど顧慮しない単なる「自分語り」はかなり少なくなった印象です。
- とはいえ、「著者と真摯に対話」していることがありありと見てとられるレポートは、極少数でした。一昨年度講評の関連箇所を以下に再掲します。

テキストを批評するからには、自分独自の（ある意味では自分勝手な）議論を展開するためのきっかけや素材としてテキストを利用するのではなく、テキストの著者が取り組んでいるまさにその問題の枠内にとどまって、テキストの著者と真摯に対話するという姿勢がまずもって必要です。

（あなたが著者と対話できているかどうかを確かめるには、次のような方法を試してみるのがよいでしょう。あなたが著者に対して差し向けている問いや批判に対して、著者はどのような回答を返してくるでしょうか。その回答が、テキスト上の根拠をもって予測できるならば、あなたはきちんと著者と対話できている可能性が高いです。回答の予測がつかない場合、あなたは著者の議論を無視した自分勝手な議論を展開している可能性が高いです。ご自身のレポートとテキストを見返して確かめてみて下さい。）

- 誤字・脱字が目立つレポートや、主語述語の対応関係など文法的な誤りのあるレポート、文章間のつながりや流れが見えにくいレポートも散見されました。レポートは他人に読んでもらうための文章ですから、提出前に必ず何度も自分で読み直す習慣を身に付けて下さい。先生や友人、家族などに読んでもらい、添削や感想を求めるのもよいでしょう。さすがに代筆やコピペなどは許されませんが、レポートを完成させるに当たって他人からのアドバイスを得ることに何の問題もありません。それはむしろ奨励されていると考えて下さい。これは、大学入学後に提出を要求されるレポートや卒業論文にも該当します。
- 昨年度の講評にも記しましたが、原稿用紙のテンプレートを使う必要はありません。むしろ、明確に指定されている場合を除き、一般には使わない方が望ましいです。

【鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』(18名)に対する講評】

- 単なる共感の吐露や感想文の域を越えていないレポート、著者の問題設定に対する根本的な無理解に起因する批評、著者の主張や議論の曲解に基づいた批評などが目につきました。
- 映画『君の名は』での身体の入替わりの例を手がかりにして、著者の言う《他者の他者》としての〈わたし〉は本当の〈わたし〉とは言えないのではないかという議論を展開していたレポートは、面白い試みでした。ただし、その問題は、哲学では数的同一性（自己同一性）と呼ばれる問題であり、本書で問題とされている同一性＝アイデンティティの問題とは多少ずれてしまっているところが残念に思います。

【マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしてしよう』(4名)に対する講評】

- 内容理解（要約）の面で行くぶん誤解のあるレポートや、単なる感想文の域を超えていない批評などが目につきました。
- 著者の最終的主張に対して好意的な評価を与えていた人が2名いましたが、両者ともにロールズ流のリベラリズムへの言及を欠いていたところが不十分に思いました。リベラリズムの長所・短所に対する適切な評価を欠いたままでは、サンデル流の共同体主義を適切に評価することもできません。

【河合隼雄『子どもの宇宙』に対する講評(6名)に対する講評】

- 単なる共感の吐露や感想文の域を越えていない批評が目につきました。
- その中であって、「子どもと動物」の章に対する批評を試みていたレポートからは、子どもと動物との関わりについての具体例に対する分析や、大人に対して理解を求める記述が持つ意義についての検討を踏まえ、本書を適切に評価しようとする姿勢が窺いられました。

【大田堯『教育とは何か』(4名)に対する講評】

- 著者の主張の表層だけを捉えて同調・コメントする批評や、議論の本筋とは離れたところでコメントや批判を試みる批評が目につきました。どのような教育や学校のあり方が望ましいあり方なのか、それはなぜそう言えるのかについて、もっとしっかり著者と「対話」してもらえればと思います。

【齋藤環『社会的ひきこもり』(3名)に対する講評】

- 単なる感想や思い付きの域を脱していない批評が目につきました。社会的引きこもりのような社会問題は、容易には解決できないからこそ社会問題になっているのだという現実を、まずはしっかりと見据えて下さい。そうすれば、短絡的に解決策を提案しようとする前に、あらかじめ調査・考察しておかなければならない事柄がいろいろとあるはずだということに気付くと思います。

以上